

特定非営利活動法人 だんでらいおん
みんなの家「フェロー」
令和 7 年度 地域連携推進会議 議事録

開催日時：令和 8 年 3 月 1 9 日（木） 1 0：0 0～

開催場所：みんなの家「フェロー」 3 階

○住居訪問

○構成メンバーご紹介

○久保理事長ご挨拶

○事業所紹介

○会議の位置付けと目的

- 令和 7 年度から地域連携推進会議が義務化され、目的は「支援体制とサービスの質・透明性確保」。
- 個人情報保護と守秘義務の徹底を強調。

○事業・運営の現状と新年度の課題

- グループホーム・事業所運営：「行動援護」「移動支援」に加え、令和 7 年 4 月より「重度訪問介護」も事業に追加。高齢化・重度化に対し今後の必須事業と認識。
- 利用者の高齢化・障がい重度化への対応として、フロア再編（性別・ケア内容に応じた住み分け）、女性利用者の QOL 向上、職員の対応しやすさ追求。
- 医療連携強化：訪問看護・診療の契約を強化し、緊急時迅速に医療に繋げる体制を目指す。

○地域との連携

- 地域住民からの苦情・大きな問題なし、ただし「潜在的な声の拾い上げ」を今後の連携課題と認識。町会で把握された際の情報共有をお願いした。
- 地域行事（お祭り、清掃活動、年末夜警等）への定期参画を継続。

○サービスの透明性・質の確保

- 災害対策・防災訓練：地域避難計画とグループホームの BCP（事業継続計画）訓練を強化。津波・洪水被害へ階上避難など最新の防災仕様へ修正。
- 外部有識者による BCP・感染症対策研修実施（ゾーニング、具体的事例共有、ペア・グループワークなど）。

○利用者の権利擁護

- 利用者事故（転倒・骨折等）が複数件発生。原因究明と再発防止に向け、物理的変更（家具レイアウト修正・床材変更）、センサー等 ICT 導入の活用・周知、職員の動線・支援優先順位・声かけ強化など多層的対応を実施。
- 支援現場での潜在リスクの早期特定と分析を推進。
- 連絡帳、予定表共有等、コミュニケーション不備への改善を図り、迅速な連絡体制の徹底。
- 夜間支援（排泄誘導）の課題では利用者の意思尊重と事故防止のバランスを再見直し。
- 利用者アンケートでは高評価が大半だが、一部で満足度にばらつき。「誘導的質問」を避け、“本音”の可視化に注力。
- 研修体系の徹底、メンター制度運用、メンタルヘルス配慮のリフレッシュ休暇（7 日間／年）導入により離職率低下・定着化を促進。
- 賃金面も含む多方面から職員満足度を追求。

○意見交換・今後の展望

- 浸水リスク評価や避難フロア確認、電気自動車からの非常用電源確保等、災害対応を強化。

- 備蓄見直し・拡充、地域住民への開放と連携の強化を検討中。
- 町会においては若年層の防災活動参画が低い現状に危機感、町会・事業者相互協力による災害時統合支援体制の構築を目指す。
- 支援優先順位設定・多様なケースを想定した訓練の必要性を共有。
- 地域ネットワーク強化、災害時の役割分担明確化と実効性ある連携体制構築が今後の最重要テーマ。